

●指導の実際



【生徒の感想】

- ・失敗して諦めたらそこで終わりだけど、それをバネにするという気持ちになれるということがすごい。それだけこのことを叶えたいという気持ちがすごく伝わった。難しい内容だったけどわかりやすかった。失敗をバネにすることでやり遂げられるからすごいなと思う。あきらめないことは大切だなと思った。

【担任の感想】

- ・JAXAの映像資料を利用し「はやぶさ」の偉業を説明することで生徒が興味を持って進めることができました。「はやぶさⅡ」が4日後に地球に帰還するニュースもあり、事前・事後に「はやぶさⅡ」のニュースをリアルタイムで紹介することでさらに興味をもってくれたと思います。先人たちがたくさんの失敗にくじけず、諦めずに目標を実現することで、科学が進歩し、現在の豊かな生活を送ることができることを理解してもらえよ機会になったと思います。

【教科担当の感想】

- ・理科教諭が「はやぶさ」の偉業について説明することで、専門的なことを分かりやすく伝えることができました。また、生徒は目をキラキラさせながら「はやぶさ」の映像を食い入るように見つめていました。研究者の偉業から学ぶ強い意志や気持ちをたくさん汲み取り、最後は心に響く発表もしてくれました。今回の「はやぶさ」の学習から『失敗をバネにして頑張ることの大切さ』に気づくことができたと思います。

【成果〇と課題●】 ※（ ）内は「指導のポイント」で示したカリキュラム・マネジメントの3つの側面
〇TT指導において、教師が教科の専門性を発揮し、教材に関連した具体的な内容を伝えることで、道徳的価値に迫ることができた。教科指導においても、その事象の経緯や当事者の思いを感じ取らせながら理解させることで道徳教育の充実を図ることができた。(①)

〇道徳科の授業では、生徒実態にに応じて、昨年度の資料をもとに効率よく教材研究・授業計画を進めることができた。(②)

〇臨時休業中に取り組んだ「生徒作文」を、道徳科の授業で紹介し、多面的・多角的な見方をもたせることができた。仲間の作文は、生徒にとって身近なものであり、教材への関心を高めることにつながった。(③)

〇総合的な学習の時間の体験活動と関連付けることで、新しい発見や実感を伴う感想が見られた。また、三原市地域支援員をパイプ役とすることで、GTなど地域の多くの人的資源を活用することができた。GTの活用により、例えば、守られ恩恵を受けていることや仕事に打ち込む姿勢を感じ取らせることができた。この地域人材の広がりによって、キャリア教育と関連付けた道徳教育を推進することができた。(③)

●学校内外の人的資源・物的資源の活用は時間を要し、計画的に連携・実施する必要があった。今年度の資源及びこれまでに活用した資源を途切れさせず蓄積し、次年度の計画に反映させていく。

●道徳推進教師を中心としてカリキュラム・マネジメントに取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、生徒の実態に応じた組織的なカリキュラム配列の工夫が不十分だった。今後は多様な変化にも対応できるよう、教職員相互の連携の質を高め、効率的に情報の共有・交換を行う取組を進めていく。

